

院外茶話

vol.148 平成 29 年 9 月 1 日

一生一度のできごとは
とまどう事件の連続で
喜んで、怒って、反省をして
なるようにしなければならない

一生一度の 建築日記(5)



今はあまり流行らない海水浴だけど。

娘たちが子供の頃に、毎年の夏休みを過ごしたのは浜松を過ぎたあたりの新居町で、目的は海水浴。夏だけ小さな部屋を借りて、別荘の気分だった。

南の窓を開けると畑が広がって、ポツンポツンと家があった。その向こうに松林が見えて、海岸は松林のその先にある。

ある朝、畑の中に数名の職人がいて、何かの工事を始める様子。気にもとめずに海水浴にでかけたが、帰ってきたらなんと家の1階部分ができ上がっていたのである。

次の日も、その次の日もトラックがやってきて、積み木のように部屋を組み立てて、ものの1週間で家が建ってしまった。多分運ばれてくる部屋の中には、浴室や洗面所もついていたのだろう。

ただし、建築前の基礎工事はどうなっていたのかわからない。それに、遠めに眺めていただ

けなので箱と箱、つまりは部屋と部屋の継ぎ目の仕上げもわからない。

それに引き換え、建て替え中の我が家は、古い家の解体に3か月もかかって、完成はまだまだ先のこと。

家は一生のものだから、時間と手間をかけた方がいいと聞くけれど、この年になってから一生と言われても、あと3年かもしれないじゃないか。

そんな愚痴を言ってみても、どうなるものでもない。これまでも大変だったけど、これからもいろいろな問題が起きることだろう。

その問題とは何か。最初に直面をしたのが金策だった。これまで金融界も建築業界も、全く内情を知らなかったので、その都度うろたえながら対処の連続。

長年健全な経営をしていれば、借金などは簡単にできると思っていたけど、そもそもこれが間違いの始まりであった。

最初に行ったのは自由が丘に来て以来、58年の付き合いになる銀行。ある程度の信用はあるかと思ったけど、年齢を言ったらその場で借金は断られてしまった。



家の解体を始めて更地になるまで3か月。

次に行ったのは、預金をたくさんしていた信用金庫。身分証明書がわりに、預金通帳を差し

出して金策の相談をしたところ、聞かれたことはここ3年間の収入。

正確に答える術もなく、およその数字を伝えると、まずはその書類からと言われて、差し出した通帳は開きもせずポンと投げて返された。

それでも捨てる神あれば拾う神あり。ずいぶん親切に対応してくれる銀行もあって、諸費用や有利な借り方、返済計画まで細かく提案をしてくれた。

この落差は銀行間の違いか、たまたま出会った担当者の違いかわからない。



防火対策とは言うが見栄えが悪い。

予測はしていたことだけど、建築が進むうちに思わぬ費用が高んでくる。その理由は、ここ数十年のうちに改正された様々な規制。

窓硝子には針金のような網目が入って、価格も上がるし、うっとうしい眺めになるが、これも防火対策として受け入れなければならない。規制をクリアする透明な硝子もないわけではないが、うんと高くつくので諦めた。

一つ一つの部屋の天井には、火災報知機をつけなければならない。部屋の見栄えを悪くするけど、これも法律上決まっていること。

でも、思い返して見れば、最近消防車のサイレンを聞く機会がめっきり少なくなったかな。停電も10年以上経験をしていないと思う。

昔は常にろうそくとマッチが決まった引き出しに入っていて、突然灯りが消えた数分の暗闇が結構楽しかったけど、今はろうそくのある場所もわからない。

規制とは別に、内装も一つ一つの壁紙や床板を比べれば、いいものが欲しくなる。欲求は無制限に膨らむから、ここは自制が必要。建築コストを抑えるコツは、いろいろな商品を比べないことである。

問題は収納スペースで、作り付けの棚が全くない。ここは譲れないところで、追加の費用。照明も少なかった。小さな問題だけど、全部あわせると結構な出費になる。

予想外と言え、建築のM社の会議室で告げられた思わぬ出費。担当者から要求されたのは、起工にあたってのご祝儀だった。〇〇と××と誰それと・・・その場に居合わせた数名を名指して、指定した金額の心づけが欲しいと。

この業界には未だにこんな風習が残っている。想像もしていなかったことなので、きっと私は不愉快な顔をしたのだろう。すると、

「これはお気持ち。お気持ちです。あくまで施主さんのお気持ちですから。」

担当者は祝儀の要求をした後で、しきりに「お気持ち」を繰り返していたけれど、後味の悪いやりとりになった。

今、医療の世界でこれをやったら、すぐさまアウトである。



建築が始まって半年、ここまできた。

こんな珍事が続きながらも、建築は順調。

建築費の支払いは3回に分けて振り込むことになっていただけ、ここで事件が起きた。

長引く腰痛のために、鎮痛剤の内服を続けたのが原因だろう。胃潰瘍を患って、そこに運悪くアニサキスがとりついて、ひどい胃痛と吐血があった。

どちらも大事には至らなかったけれど、妻にとって吐血は衝撃的な事件だった。万一私の身に何かあったときの、対策をとっておかなくてはならない。その対策とは何か。

それは、とにかく私名義の通帳から、早く建築費を払って中身を空にすること。

本当に厳しいのは銀行や建築会社ではなく、身内だったかもしれない。